

C2 審判長（黒須真希）

1. 採点上打ち合わせた事項

① 適用規則の確認

採点規則 2017年版 変更規則 I

女子体操競技情報 30号

② 採点指針の確認

③ 新技申請

なし

④ 監督会議の連絡事項

・Dスコアに対しての質問について

そのローテーションの間に D1 へ口頭で質問をする。意見の相違がある場合は、書面で審判長へ

・不適切なマグネシウムの使用について

・平均台表面上への水の使用について

・出血時の対応について

・コーチの行動について

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

審判業務全般においては、D1 審判を中心に採点業務を進めることができ無事競技を終えることができた。コロナ渦での開催となり開催県の役員の皆様には通常の競技会以上の心配りや手厚いサポートをしていただきスムーズに大会運営ができたと思っている。

選手は前日の練習から念入りに確認をしている印象で、難度の高い技や複数の組み合わせを新たに入れてきている選手も見られ、冬場の練習で D スコアを上げようと取り組んできたように感じた。実際に競技会当日は、D スコアを上げてきたことや今シーズン競技会ができていないことで、完成度が低く失敗や怪我に繋がる場面、危ない場面が非常に多かった。今年度はコロナ渦で、競技会の経験や遠征に行けなかったことで調整には苦勞しているように感じた。これからシーズンが始まるところなので、完成度を高めていき安定した演技ができるように頑張ってもらいたい。

E スコアについては数年前から膝つま先が伸びない、姿勢の悪い選手が増えてきていることに対して審判としても危機感を感じ、採点指針では「膝つま先の緩みのない美しい姿勢での正確な実施」を最重要項目としてあげてきた。今回、前日の練習から競技会当日の選手の様子を見ていて、少しずつ姿勢の良い選手が増えてきたように感じた。しかし、まだ段違い平行棒のスイングで膝つま先が伸びていない、平均台で座の姿勢になった時につま先が緩んでいる、トウ立ちが低い、ゆかの演技でコーナーへ向かうところでベタベタ歩いている、ターンの浮足のつま先が伸ばせない、など少し意識するだけで改善できるところで足元まで意識が届いてない選手が多く見られるので、美しい姿勢での技の実施については、今後の課題として引き続き取り組んでほしい。D スコアを上げること、姿勢を意識すること、同時進行で進めていくことはとても大変なことではあるが、スコアをあげていくためにどちらもとても大事なことなので前向きに頑張ってもらいたい。夏の競技会でパワーアップしている姿を楽しみにしています。

1. 採点上打ち合わせた事項

1) 適用規則の確認

2017年版採点規則 変更規則 I 情報30号までを適用

2) 採点指針の確認

情報30号跳馬採点指針「Dスコアの高い跳躍技の実施」「高さや距離を伴うスピードのあるダイナミックな跳躍」をもとに、跳躍の大きさだけではなく、技の難易度から受ける迫力や雄大性なども加味し、ダイナミックさに欠ける跳躍は第10章跳馬「種目特有な実施減点」の「ダイナミックさに欠ける 0.1/0.3/0.5」を有効に使用して明確に差をつける。完成度の低い跳躍については、それぞれの局面での欠点を、第8章の一般欠点と減点表の減点項目や、第10章跳馬「種目特有な実施減点」の減点項目に則り厳密に減点をする。

3) アシスタント、セクレタリーの任務

線審：練習回数カウントの確認

境界線の踏み出し 0.1/0.3 の減点の確認

コーチからの再確認の要求に対応できるように、すべての過失は記録しておく。

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし。

3. その他特記事項・意見・感想等

跳躍総数133(跳躍実施選手68名)中の跳躍技実施状況は以下の通りであった。

跳躍番号	跳 躍 技	Dスコア	跳躍数
2.10	前転とび～前方かかえ込み宙返り	4.00	2
2.11	前転とび～前方かかえ込み宙返り 1/2 ひねり	4.40	4
2.20	前転とび～前方屈身宙返り	4.20	1 1
2.21	前転とび～前方屈身宙返り 1/2 ひねり	4.60	2
3.12	かかえ込みツカハラとび 1 回ひねり	4.10	1 0
3.20	屈身ツカハラとび	3.70	1 2
3.30	伸身ツカハラとび	4.20	3
3.32	伸身ツカハラとび 1 回ひねり	4.80	2 1
3.33	伸身ツカハラとび 1 1/2 ひねり	5.20	7
3.34	伸身ツカハラとび 2 回ひねり	5.60	2
4.10	ロンダート後転とび～後方かかえ込み宙返り	3.30	1
4.12	ロンダート後転とび～後方かかえ込み宙返り 1 回ひねり	3.90	1
4.20	ロンダート後転とび～後方屈身宙返り	3.50	1 5
4.30	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り	4.00	5
4.32	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 1 回ひねり	4.60	2 2
4.33	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 1 1/2 ひねり	5.00	2
4.34	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 2 回ひねり	5.40	1 1
1.00	前転とび	2.00	2

今大会において、第2空中局面でひねりを伴う跳躍技を実施した選手の跳躍総数は81(43名)、全体の約63%であった。Dスコアの高い跳躍技に取り組む選手が多く見られた。特に、Dスコア5.00以上の跳躍技総数は22(12名)、17%ということで向上が見られた。しかし、Dスコアの高い跳躍技に挑戦していても、姿勢欠点が多くみられたり、完成度の低い実施もみられたりした。採点指針の最重要項目である「膝、つま先の緩みのない美しい姿勢での正確な技の実施」にしたがって厳密に減点をおこなったため、Eスコアが伸びない選手もいた。

今年度の指針でもある「Dスコアの高い跳躍技」に挑戦しつつ、「膝、つま先の緩みのない美しい姿勢での正確な技の実施」を目指してほしい。

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 適用規則の確認

2017 年度版採点規則 変更規則 I 女子体操競技情報 30 号までを適用

(2) 採点指針の確認

○全体として

①膝・つま先の緩みのない美しい姿勢での正確な技の実施

②高い D スコアの獲得を目指した演技構成

*ただし①を満たせていない実施に対しては厳密に減点をする

○種目として

・腕の曲がりや膝、つま先の緩みのない美しく伸びた体線での正確な技の実施

・技の振幅が大きいダイナミックな演技

・多様な空中局面を伴う技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できる演技構成

○指針に沿わない姿勢欠点のある実施については、第 8 章「一般欠点と減点表」、第 11 章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の減点、変更規則 I にある「前向きでない構成」の減点を有効に使用し、採点することを確認した。

○け上がり、振り上げ倒立などの基本技の姿勢についても注視し、指針に沿っている演技とそうでない演技に対して明確に差をつけることを確認した。

(3) アシスタント (計時審) の任務内容の確認

落下時間及び練習時間の計測について確認した。また、落下による中断時間中に止血が必要であると医師または審判長が判断した場合、落下時間を超えて演技を中断しても減点なしで再開できることを確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

今大会、多様な空中局面を伴う技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できる演技構成に取り組んでいる選手が多く見られ、変更規則 I ではありますが、D スコア 6.0 以上を 3 名、5.5~5.9 を 10 名の選手が獲得しました。多くの選手が果敢に D スコアの獲得を目指していることが見られた一方、「腕の曲がりや膝、つま先の緩みのない美しく伸びた体線での正確な技の実施」の面ではまだ改善の余地が見られると感じました。特に、倒立姿勢は意識しても、倒立に至るまでの腕の曲がりや体の反り、車輪で低棒を通る際の膝曲がりやつま先などの減点がある選手が多く見られました。け上がり~振り上げ倒立の基本技にも理想を高く持ち、倒立の姿勢、角度のみならず、スイングの大きさや倒立を上げる過程にも理想を高く持ってトレーニングに励んでいただきたいと思います。また今回は高い D スコアに挑戦した中で、数名の怪我人が出てしまいました。怪我の完治をお祈りするとともに、今後正確な実施、完成度の高い実施を目指し、練習を積んでほしいと思います。

最後に、コロナ禍により開催も不透明であった中、選手及び関係者が大会に集中できるよう、様々な配慮をしてくださった運営の皆様に改めて御礼申し上げます。

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 採点指針の確認 (情報 30 号)

- －アクロバット系の技、ダンス系の技が正確で熟練された演技
- －立ち姿勢、つま先まで意識された常に美しい姿勢での演技
- －技の前の「調整」や「停止」のない流れのある演技
- －高いDスコアの獲得を目指した演技構成

採点上の留意点として、ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施、正確さに欠ける実施には厳密に減点すること、また、頭部や胴体、肩、腕の位置が悪い、つま先が伸びない、足が内向き、つま先立ちでの運動や動きに欠ける演技に対しては、「演技全体を通して身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り減点をし、指針に沿った演技とそうでない演技を明確に差をつけることを確認した。

(2) アシスタント任務の確認 (計時の任務内容)

- ・練習時間の計時 (1 人 30 秒)
- ・演技時間の計時 (1 分 20 秒と 1 分 30 秒で合図をする)
- ・落下による中断時間の計時について、選手が落下時間の計測を開始することを避けるために故意に立ち上がらない場合、怪我等がないことの確認ができれば計時を開始することをコールした後、計時を開始すること。
- ・質問に備えて、すべて記録しておくことを確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

今大会においては、特にダンス系の技においてD難度やE難度のジャンプやターンを実施している選手が多く見られた。また、複数の組み合わせ点を得るための組み合わせにチャレンジしている選手が多く見られた。さらに、開始技においてもD難度やE難度の技を実施する選手も以前より増え、多くの選手が高いDスコアの獲得を目指した演技構成に積極的に取り組んでいると感じた。しかし、ターンやジャンプのときの上体の姿勢や手のポジションまで意識が行き届いていない実施やひねり不足など不正確な実施も多く見られた。今回の採点指針においてはより正確な実施が求められているため、今後の大会を見据えてトレーニングに励んでいただきたい。

1. 採点上打ち合わせた事項・適用規則の確認

・適用規則の確認

2017年版採点規則 変更規則 I 情報 30号までを適用

・採点指針の確認

・Eスコアに関する確認 (採点指針を踏まえ、主に以下のことについて確認した)

①各技の特性を理解した上で理想像を持ち、理想像からの逸脱を減点項目によって厳密に減点する。

②立ち姿勢、つま先まで意識された美しい姿勢のもとに、芸術的作品としての完成度の高い演技であるかを見極め、得点によって評価の方向性を示すよう採点を行う。

・Dスコアに関する確認

特にダンス系の技の承認要求を確認した

・アシスタントの任務の確認

2. 採点上起こった事項とその処理

採点上問題となるような特筆すべき事項はなかった。

Dスコアに対する質問1件

→アクロバット系ひねり、ダンス系ターンの承認要求を満たせていなかった旨、口頭にて監督に説明した。

3. その他特記事項・意見・感想等

今回の競技会では、アクロバット系の技において、高難度の技や組み合わせ点に取り組んでいる選手が多かった反面、着地姿勢や着地後のステップの減点、演技面の踏み出しによる減点が多数見受けられた。コントロールされ、着地まで安定したアクロバット系の技の実施を期待したい。また、組み合わせ点を得た選手の多くは、「後方伸身宙返り1 1/2 ひねりー前方伸身宙返り1回ひねり」で組み合わせ点+0.10を獲得する構成を実施していたが、組み合わせ点+0.20を獲得できる構成や複数箇所での組み合わせ点を獲得できる構成は少なかった。今後高いDスコアを狙うためには多様な組み合わせ点への取り組みを期待したい。

ダンス系の技においては、特に、片足踏み切り前後開脚とび1回ひねり、両足踏み切り左右開脚1回ひねりに関して、ひねり不十分となる実施が多かった。技の始まりと終わりの位置を意識した正確な実施が望まれる。またダンス系の技のターンでは、バランスを崩す実施や回転中に規定の姿勢が保持できないなどの不確実な実施が多く、基本的な技術が身につけていない中で、高難度の技に挑戦しているような印象を受けた。正確な技術のもとに高難度の技へと取り組んでいただきたい。

全体を通して、振付や音楽が工夫された演技は多かったが、立ち姿勢やつま先まで意識された常に美しい姿勢の中で高い芸術性を発揮した選手は少なかった印象である。頭部・胴体・肩・腕・足・つま先がどの瞬間も美しい姿勢であるという前提のもとに、芸術性が評価されるということに立ち返り、美しい姿勢づくりに取り組んでいただきたい。